

目 次

はしがき
凡 例

序 章 国際法の「法源」としての条約	1
1 「法源」の意味	1
2 国際法の「法源」の種類	2
3 国際法の「法源」としての条約	3
第1章 条約の概念	7
1 主体——「国」または「国際機関」	8
2 「文書の形式」	9
3 「名称のいかんを問わない」	9
4 「単一の文書によるものであるか関連する二以上の文書によるものであるかを問わず」	10
5 「国際法によって規律される国際的な合意」	11
第2章 条約の歴史	16
1 起 源	17
2 15世紀から第1次世界大戦まで	20
3 第1次世界大戦から第2次世界大戦まで	40
4 第2次世界大戦から現在まで	42
5 日本と条約	43
第3章 条約の成立	46
1 条約締結能力	46
2 締結過程	48
第4章 条約の遵守、適用および解釈	62
1 条約の遵守	63

2	適用	63
3	解釈	73
第5章	条約の実施（総論）	——日本の場合……………89
1	国際的な側面	90
2	国内的な側面	91
第6章	条約の実施（各論）	——日本の場合……………116
1	社会権規約	116
2	自由権規約	126
3	拷問等禁止条約	147
4	児童の権利条約	148
5	人種差別撤廃条約	150
6	女子差別撤廃条約	158
7	障害者権利条約	163
8	難民条約	167
9	社会保障の最低基準に関する条約（第102号）	168
10	WTO 設立協定および附属書に含まれる協定	169
11	条約法条約	173
12	日韓請求権協定	178
13	日中共同声明	179
14	その他	180
第7章	条約の無効、終了および運用停止……………182	
1	無効原因	182
2	終了および運用停止原因	190
3	手続および効果	200

参考文献
 事項索引
 判例索引